

日刊 動労千葉

81.12.16

No. 922

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）（電）三二七二〇七

帝国主義労働運動 12・14 『統一準備会』発足を怒りをこめて弾劾する！

「民間先行による労働戦線統一準備会」発足総会は、多くの労働者・人民の反対を押し切り、12月14日、東京、港区の電気労連会館で行われ、「基本構想」に賛成し、「統一準備会」参加を決定した総評五単産（鉄鋼労連、合化労連、全日通、電気労連、全鉦）、同盟十七単産、中立労連七単産、新産別四単産、純中立六単産、合計三十九単産（三八〇万人）が参加して発足した。われわれは、この帝国主義労働運動への一層のめり込みを、怒りを込めて弾劾するとともに、必ずやこれをね返し、闘いぬいていくことを宣言する。

11・4総評臨時大会以降 「統一準備会」発足に至る経過

11月4日の総評臨時大会において、総評指導部は、「基本構想の大筋理解」を前提に、「基本構想と異った意見の単産も準備会参加を保障する」との提案によって、労働「統一」に「決着」をつけようとした。

同盟が容認するはずもない提案は、12月1日、宇佐美同盟会長が「準備会参加は『基本構想』了解が原則であり、なだれこみには断固反対」と言明したことにより、たちまちふっ飛んでしまう。

労資協調、企業防衛路線の同盟新運動方針案に加え、この宇佐美発言に、さすがの総評指導部も「宇佐美発言の撤回」と、「総評・総連合両議長合意を団体間協議で確認を求め」との留保条件をつけた「準備会」参加方針を打ち出した。

だが、結局「宇佐美発言撤回」など一笑に付され、条件は何ら満たされぬまま、12月14日の総評幹事会は、「統一推進会の四項目のまとめを、同盟も理解し尊重した」などと手前勝手に解釈し、留保を解き、鉄鋼労連など五単産の「準備会」参加を認めたのである。

労働「統一」は粉碎の対象である

私達はこの間、右翼労働「統一」のもつ意味といかに対決して闘うかを日刊動労千葉や職場討議資料の小冊子等で明らかにし、12・3労働者集会でも広く内外に訴えてきた。

すなわち、労働「統一」の攻撃は、日本帝国主義とその手先による軍事大国化・改憲にむけて、戦闘的労働運動解体攻撃そのものである。

かつて電産がつぶされ、炭労がつぶされたのと同様に、今日の総評労働運動の中軸をなす国鉄労働運動を破壊する攻撃であり、そうである以上、徹頭徹尾粉碎の対象でしかありえない。

こうした同盟、JCに代表される帝国主義労働運動による「右からの分裂」攻撃の挑戦の前に、総評指導部がオロオロと守勢に終始し、迎合、屈服している中に最大の危機があるのだ。

とりわけ動労「本部」革マルが、ついにファシスト的本性をあらわし、右翼労働「統一」の尖兵・富塚路線の親衛隊として闘う労働者に襲いかかり、「全統統一」路線を唱えて、総評を丸ごと「産業報国会」化にひきこもうとしていることを、

徹底弾劾しなければならぬ。

反合・82春闘と結合した三里塚二期 決戦の爆発によって勝利をかちとれ

このような反動を粉碎し、勝利の展望を切りひらくためには、あらゆる職場・地域から軍事大国化・改憲に抗する戦闘的大衆運動の大高揚を、何んとしても創り出すことである。

国鉄35万人体制にむけた合理化に反対する闘いと82春闘を、三里塚二期決戦と結合させ、勝利をかちとる闘いが今求められている。

ここにこそ、労働「統一」に右翼分裂攻撃を吹きとばす力があるのだ。今、激しい怒りをこめて多くの職場・地域からまき起こってきている右翼労働「統一」反対の、この声と力を「三里塚を闘う労働運動の構築」「82年3月総決起」に結合し大胆に闘っていくこと。

12・13右翼労働「統一」粉碎 日比谷集会かちとる

「『基本構想』に基づく統一準備会の発足を許すな！12・13全国労働者総決起集会」は、日比谷野外音楽堂に3千5百名を結集して開催された。

「統一準備会」発足を翌日にひかえ、緊張の中にも「粉碎」の決意を胸に、多くの労働者が結集した。集会では市川総評元議長が挨拶し、「『統一』によるこんでいるのは、資本家と自民党だけだ。もしこのまま『統一』が進められたら、『平和と民主主義』の闘いはすてさられてしまう。皆さんの闘いの結集で、右からの攻撃を押しさえそうではないか」と述べた。

動労千葉からは73名が参加し、代表して片岡執行委員が「軍事大国化・改憲にむけた攻撃を反合・82春闘と結合させた三里塚闘争の爆発により、とりわけ3・28への決起を通して粉碎しよう」と力強く訴えた。

全参加者は、集会終了後断固たる都心デモを貫徹した。